



シャロンのバラ Julius Schnorr von Carolsfeld

雅歌の構成は、もし曲がつけられれば、乙女(ソプラノ)、侍女の乙女たち(女性合唱)、若者(テノール)、そして合唱(混声合唱)の歌で成り立つのではないかと想像して、楽しくなります。

乙女はひたすら恋しい人を恋い慕い、侍女たちは乙女を支援します。恋人である若者の声が聞こえ、乙女は花嫁の印の金銀の装飾品で飾られます。乙女は喜びます。若者と乙女は互いの美しさを褒めたたえますが、乙女は恋しい人、美しいのはあなた／わたしの喜び。わたしたちの寢床は緑の茂み。(雅1:16)と、自分は、野の花に過ぎない、自然の中に生きる人間であるという立場を伝えています。

若者の「姿を見せておくれ」という声がありますが、乙女は金、銀の美しさではなく、リンゴの実、ぶどうのお菓子が嬉しいのだと伝えています。乙女は「愛がそれを望むまでは愛を呼びさまさない」と誓いなさいと侍女たちに2度も求めます。この句は、誰にも邪魔されず、また、指図されずに、恋人同士が互いを求めあう、自然な愛の関係こそ、自分の願う愛の形であると言っているようです。彼女は恋人を求める気持ちを隠したい、そのまますぐに行為に表すには躊躇する気持ちもあるのです。

やがて合唱が威風堂々たるソロモンの様子と結婚式の荘厳華麗さを思わせる歌を歌います。天蓋の柱はレバノン杉、銀の台座に、金の玉座が置かれ、紫布で張り巡らされています。そこへ花嫁は迎えられようとしています。若者は乙女の前で彼女の美しい姿を一つ一つ褒めたたえます。

恋人よ、あなたはなにもかも美しく／傷はひとつもない。…わたしの妹、花嫁よ／あなたはわたしの心をときめかす。(雅4:7)若者を魅了してやまない乙女ですが、同時にわたしの妹、花嫁は、閉ざされた園。閉ざされた園、封じられた泉(雅4:12)であることに戸惑います。処女であることを示しています。

若者に対し、乙女も北風よ、目覚めよ。南風よ、吹け。わたしの園を吹き抜けて／香りを振りまいておくれ。恋しい人がこの園をわがものとして／このみごとな実を食べてくださるように。(雅4:16)と激しい恋心で応えたいと願いながらも、すぐに応じることができません。若者は立ち去ってしまいます。悔恨に暮れて乙女は若者を褒めたたえ、「レバノンの山、レバノンの杉のような若者」と慕います。

若者の声が聞こえます。恋人よ、あなたはティルツアのように美しく／エルサレムのように麗しく／旗を掲げた軍勢のように恐ろしい。わたしを混乱させるその目を／わたしからそらせておくれ。(雅6:4)と正直な思いを伝えます。女性は思い通りにならないのでしょうか。若者はあなたの立ち姿はなつめやし、乳房はその実の房。なつめやしの木に登り／甘い実の房をつかんでみたい。わたしの願いは／ぶどうの房のようなあなたの乳房／りんごの香りのようなあなたの息／うまいぶどう酒のようなあなたの口。(雅7:8)と願いを吐露します。乙女はその願いを聞いて出ていきます。あなたに私の愛を捧げると言いながら。再び、「愛がそれを望むまでは愛を呼びさまさない」、と侍女たちに命じ、乙女は恋人の腕に寄りかかって登場します。乙女はわたしを刻みつけてください／あなたの心に、印章として／あなたの腕に、印章として。(雅8:6)とひたすら願います。待つ身の女性にとっては、愛する人の確かで変わらない愛が唯一のよりどころなのです。若い女性の自然でおおらかで愛に生きようとする思いが綴られています。

そのあとの合唱は激しく、強く歌う、愛の賛歌で、フィナーレとなります。

愛は死のように強く／熱情は陰府のように酷い。火花を散らして燃える炎。

大水も愛を消すことはできない／洪水もそれを押し流すことはできない。

愛を支配しようと／財宝などを差し出す人があれば／その人は必ずさげすまれる。(雅8:6b)